

資料シリーズ

資料シリーズは、教育訓練ニーズの把握・職業能力開発関係の動向や職業能力開発大学校研修研究センターの研究成果物の広報普及ならびに職業能力開発関連の情報の提供をするための簡単な情報媒体として昭和61年度から刊行しているものである。

第1号から第5号までは「訓研資料シリーズ」という名称であったものを、第6号から「資料シリーズ」として刊行している。

〈訓研資料シリーズNO. 1〉

タイトル：企業面接情報集1（昭和59年～62年）

発行：昭和63年11月（職業訓練研究センター）

概 要

向上訓練の発展、「B型」訓練の導入に具体的に現れているように、今日職業訓練にとって、企業現場にどのような訓練ニーズが存在するのを知ることは、欠くことのできない重要な要件となっている。この『企業面接情報集』には、訓研センター及び技能開発センターの職員が訪問した企業の実態や意見などが、できるだけ応対者の発言そのままの形で収録されている。ここに収録されている企業側発言そのものが、企業の従業員能力問題の実態を知る上で、したがってまた、訓練ニーズを知る上で重要な情報資料であるし、さらにここに収録されているような各地の企業の事情を情報として持っていることは、新たに企業訪問し、情報を得ようとするときに、話題を引き出すのに大変役立つと考える。

訓研センターでは、数年前から、各地の技能開発センターとの共同研究の形で、向上訓練コース開発など、実践的成果を生み出す研究開発を行ってきた。この資料集は、その中で繰り返し行った企業面接調査によって集めた、企業人の発言を分類整理して収録したものである。それぞれ訓研センターの報告資料その他の中で活用されているものですが、それを1冊にまとめて、『企業面接情報集』として公表することは、現在の公共訓練施設や雇用促進事センターの要望に合致したことであろうと考えられる。

このようにしてできた企業情報集ですから、いくつかの特徴、あるいは限界もありうる。まず第1に、その内容は企業サイドからみた従業員教育訓練問題に集中していることである。その他の一般的な従業員問題や企業経営の問題などに関して殆ど触れられていないし、受講者の立場での労働者個人の発言も今回は収録していません。第2に、訓研センターと技能開発センターとの共同研究の中での企業面接ですから、その関心はおのずと、企業内の教育訓練の問題点や限界を探り、公共職業訓練の果たすべき事柄を考えようとする点にあり、情報の内容もそういった観点から整理されている。第3に、地域的には関東甲信越地方の中小企業の情報だということである。全国各地の地域的な特性というものがあるかと思いますが、ここにはそれほど特殊でない、広く一般性がある、全国的にも参考になると思われるような発言を収録したつもりである。

この『企業面接情報集』が多くの関係者の方々の参考になり、全国的に公共職業訓練と産業界との情報網が太く育っていくことの一助となることを期待する。

〈訓研資料シリーズNO. 2〉

タイトル：表題リスト1（1980～1989）

発行：平成元年12月（職業訓練研修研究センター）

概 要

情報化時代をむかえ、各種の必要な情報を収集し、いかに活用するかが関心事になっている。当センターでも、職業訓練大学校調査研究部、職業訓練研究センター（昭和53年4月発足）、職業訓練研修研究センター（平成元年5月発足）と発展しながら、この間、各種の情報を出版物その他として提供してきた。

出版の中心は、「技能と技術」、「調査研究報告書」、「調査研究資料」であり、それらの内容は時代のニーズに応えた貴重な資料である。特に「技能と技術」は、昭和41年11月に創刊号が出版されてから今日に至る24年間に139巻が世に出た。

この間に訓練施設名は、総合高等職業訓練所、総合高等職業訓練校、技能開発センター、職業訓練短期大学校と変化し、そこで訓練される内容も変化してきた。職業訓練の総合雑誌である「技能と技術」に掲載された記事の内容も時代と共に変化してきた。しかし、それらの根底には、職業訓練に携わる多くの人々の「熱いおもい」が脈々と流れている。先人が残した論文、実践報告、技術情報等は今も十分に活用できるものばかりである。

そこで、10年前に遡って、「技能と技術」に掲載された記事の内容を向上訓練、能開訓練、女子訓練、各技術分野の専門内容等に分類し、検索・参照するために、本資料を作成しました。さらに、当センターから出版された「調査研究報告書」、「調査研究資料」、「その他」の一覧表も本資料に添付した。

〈訓研資料シリーズNO. 3〉

タイトル：訓練修了者面接情報集

発行：平成2年3月（職業訓練研修研究センター）

概 要

この面接事例集は、向上訓練の課題を探るコース開発の研究課程で収集したもので、総合高等職業訓練所の機械科で2年間の養成訓練を受けた人達が、その後どのような姿勢で職業活動に従事し、その間にどのような心境の変化があったか、ほぼ20年間で回想してもらった面談記録である。ここに収録した面談事例は13件と少ないものの、養成訓練修了者が自己の職業的アイデンティティを確立していく過程の多様さと、キャリア形成のパターンがよく把握されていると言えよう。この資料によって「キャリア形成と向上訓練の課題」（「職業訓練研究」第8号、1990年）がとりまとめられ報告されている。その素データを訓研資料シリーズとして敢て印刷配布する理由は主として次の2点である。

第一は、キャリア・ガイダンス資料としての活用、第二は訓練評価情報としての価値もあり、こうした訓練修了者の追跡資料は、日々訓練業務にたづさわる人々にとって広く共有されるべき情報と考えるからである。

約20年前に公共職業訓練で基礎技能を習得し、その経験を軸にライフスタイルを築くために苦闘し、地元企業の中堅リーダーとして活躍している先人の語る言葉は、現在の受講者にキャリア目標の設定を促し、訓練への動機づけを強めるであろう。機械科以外についてもこの種の情報収集活動が広く行われることを期待したい。

また、職業訓練にたづさわるものとして、日頃実施している訓練について、訓練受講者からどのように評価されているか、社会の要請する教育訓練機能に役立っているかどうか常に客観的な認識を持っている必要がある。このことは、訓練基準にしばられない、ノンフォーマル型の職業訓練が重視されるようになってきているだけに一層重要である。その意味では、この面談事例は職業訓練の評価資料として読み、訓練要望の把握や訓練内容の設定、指導のあり方の改善に反映させる多くのヒントを得るためにも利用できると思われる。

なお、本調査の対象は山梨技能開発センター機械科、昭和42年度、43年度の修了生11名、及び昭和49年修了生2名である。調査期間は昭和62年10月から63年5月である。その面談時の項目は次の通りである。

(面談項目)

- ・今までどのような仕事をしているか。
- ・今までにどのような仕事をしてきたか。
- ・キャリア形成上、自分が大切にしていることは何か、自己の存在価値は何ですか。
- ・今までの職業生活で悩んだことは～
- ・子どもの頃の自分は～
- ・自分の職業をどのように思うか。
- ・訓練修了後、今までにどのような学習機会があったか、特にoff J Tとして研修を受けた内容は～
- ・公共訓練の向上訓練にどのような内容・機能を期待するか。
- ・“旋盤技能クリニック・コース”をどのように思うか。
- ・今から10年後の自分は～
- ・自分にとって成功とは～
- ・あなたにとって職業訓練を受けた意味は～。

〈訓研資料シリーズNO. 4〉

タイトル：全国向上訓練コースガイド 平成元年度版
発行：平成2年（職業訓練研修研究センター）

概 要

各訓練施設では、近年の産業、社会構造の変化に対応させた能力開発セミナー（向上訓練）を設定し、これまでに一定の成果を既に納めている。

しかし、一方では各施設の能力開発セミナー開発担当者がコース設定を行う場合、施設のおかれた地域の状況、施設・機材等の現状を考慮しながら各コースを設定しているのも事実である。このため、全国で実施されている能力開発セミナーを全体的に眺めると、各専門分野において、同一訓練目標に対して異なった訓練時間数、同一訓練科目に対する異なったコース設定（1コース設定と基礎・応用コース等の2コース設定等）、異なったコース内容に対する同一コース名称等の差異が認められる。差異自体に問題があるとは考えられませんが、より効果的に実施しようとするとき、新規にコースを開発しようとするとき等は、他施設で実施されている類似の能力開発セミナーを参照するのが現実的で、効果的であろうと思われる。

本資料は、各施設で行われているセミナー設定方法の違いに着目してその分析を行い、「技能と技術」誌の6/1989から3/1990までの4回にわたって連載された記事を合冊したものである。

〈訓研資料シリーズNO. 5〉

タイトル：ダイジェスト

発行：平成3年3月（職業訓練研修研究センター）

概 要

情報化時代を迎え、各種の必要な情報を収集し、いかに活用するかが関心事になっている。職業訓練研修研究センターでは、職業訓練大学校調査研究部、職業訓練研究センター、職業訓練研修研究センターと発展しながら、この間各種の情報を出版物その他として提供してきた。

その出版物の中心は、「調査研究報告書」であり「調査研究資料」である。調査研究報告書は、昭和37年度に第1号が発行されてから現在までに57号が、調査研究資料は昭和46年度から現在までに91号が発行されている。それらは時代のニーズに応えた貴重な資料であるとともに、指導技法や教材作成法など現在に通用するものが多く、最近では訓練施設との共同研究で教育訓練を根底にすえた向上訓練コース開発を正面から取り組んだ報告書など有用なものが多々ある。これらの蓄積された情報は、現在職業能力開発業務に携わる多くの人々にとって十分に参考になるものと思われる。

この職業訓練研修研究センターのいわば蓄積された財産の有効な活用のため広報普及室では、平成元年度までに出版された全ての調査研究報告書と調査研究資料の概要と目次をまとめて「ダイジェスト」として出版したものである。

〈資料シリーズNO. 6〉

タイトル：表題リスト（1980～1992）

発行：平成5年3月（職業訓練研修研究センター）

概 要

情報化時代の中で、各種の有効な情報を収集し、いかに活用するかが重要となっていますが、職業能力開発大学校研修研究センターでは教育訓練の現場に密着した職業能力開発に関する有効な情報を出版物として提供してきている。

出版の中心は、「技能と技術」、「調査研究報告書」、「調査研究資料」であり、それらの内容は時代のニーズに応えた貴重な資料といえるものである。

特に「技能と技術」誌は、昭和41年11月に創刊号が出版されてから平成4年11月までの27年間に157巻が発行されています。掲載された記事の内容も時代と共に変化してきていますが、それらの根底には、職業能力開発に携わる多くの人々の情熱が脈々と流れています。先人が残した論文、実践報告、技術情報等は今日においても活用できるものが多くあり、過去の記事の内容に関する問い合わせが多く寄せられています。

そこで1980年から1992年までに「技能と技術」誌に掲載された記事の中から約1000件のタイトル、著者等一覧を「情報シリーズNO. 6 表題リスト」（1980～1992）として発行することとしました。なお、巻末には「調査研究報告書」、「調査研究資料」、「その他」等の一覧表、「技能と技術執筆要領」も添付した。